

授業科目の区分	専門分野《看護の統合と実践》			
授業科目	看護研究			
開講年次・学期	3年次・前期			
単位（時間）	2（45）			
担当講師	《実習指導教員》助産師としての実務経験あり			
科目のねらい	自己の看護実践を振り返り、意味づけすること（事例研究）を通して、看護研究のプロセスを理解するとともに、研究的態度を身につけることができる。			
到達目標	<p>1. 関心・意欲・態度</p> <p>1) 事例研究を行うことを通して、看護を追究する態度を身につけることができる。</p> <p>2) 自分の行った看護実践の疑問点・気がかりな点について明らかにしようという意欲をもち事例研究に取り組むことができる。</p> <p>3) 目標を持ち、事例研究に取り組むことができる。</p> <p>4) 事例研究のプロセスにおいて、他者（クラスメイト・指導者・教員・下級生）と協力し、学びが深まるよう行動することができる。</p> <p>2. 思考・判断</p> <p>1) 自身の看護実践において研究目的に応じて実践事例を振り返り、看護の現象を明らかにすることができる。</p> <p>2) 自己の看護実践から自己を振り返り、自己の傾向や今後の課題を見出すことができる。</p> <p>3. 技能・表現</p> <p>1) 自己の看護実践や研究目的に応じて、明らかにしたことを客観的な裏付けを基に他者に伝えるように表現できる。</p> <p>2) 自己が明らかにしたいことを明確にし、活用可能な文献を検索し、活用することができる。</p> <p>4. 知識・理解</p> <p>1) 看護研究のプロセスについて理解できる。</p> <p>2) 看護研究の意義が理解できる。</p> <p>3) 看護実践をしていく上で、継続的な学習が重要であることが理解できる。</p>			
授業計画	時間	内容と方法	事前学習	事後学習
	2h	<u>講義</u> 「授業ガイダンス」 「事例研究の目的」 「事例研究のプロセス」	・研究を行う領域に関連した文献を検索し、文献カードを作成する。（最低2件） ・看護研究を行う必要性について考える。	・本講義の目標を達成するための自己の現状について考える。
	2h	<u>講義</u> 「論文のまとめ方」	・ゴールシートを作成する。	・「ビジョン・ゴール」を明確にする。 ・目標達成のための「戦略」を考える。 ・「工程表」を作成する。 ・目的に応じた文献学習を行う。 ・「研究計画書」を作成する。 ・「抄録」を作成する。 ・「発表用パワーポイント」を作成する。 ※上記内容を進めるにあたり、担当教員との対話を繰り返す。 <u>提出課題有</u>
	2h	<u>講義</u> 「論文発表について」	・事例を発表することの意味について考える。	・発表準備を行う。 <u>提出課題有</u>
	2h	<u>講義</u> 「発表会の運営について」	・発表会を迎えるにあたり、確認しておきたいことを明確にする。	・発表会における各役割が取れるよう準備する。 <u>提出課題有</u>

	11h	<b>演習</b> 自己の事例研究についての取り組み ※時間割に演習と表記される。 ※事例研究発表会の時間数によって演習の時間数を調整する可能性がある。														<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的に研究をすすめるための主体的な取り組みや教員との対話のための準備を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の取り組みについての報告書を作成する。</li> </ul> <b>提出課題有</b> ※出席確認だけでなく、演習内容の報告をもって出席とみなす。
	26h	<b>演習（発表）</b> 「事例研究発表会」														<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの多い発表会となるよう準備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表会における学びを整理する。</li> <li>・発表を終えての自らの改善点を整理し、集録を作成する。</li> <li>・自己評価を行う。</li> <li>・自己の成長を確認する。</li> <li>・自己の課題を見出す。</li> <li>・看護研究の意義について考える。</li> </ul> ※全校事例研究発表会の準備を行う。
必携文献	1) 松本孚他：新版 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方，照林社，2009。 2) 坂下玲子他：系統看護学講座 別巻 看護研究，医学書院，2023。																
参考文献	各自が取り組む研究プロセスで必要となる文献を検索・検討し、活用しましょう。																
成績評価方法	プロジェクト学習の状況、ポートフォリオ、出席状況、取り組みや態度等全プロセスを評価する。評価規準・評価基準を提示する。(評価の観点：関心・意欲・態度、思考・判断、技能・表現、知識・理解) 6割以上を合格とする。																
備考	本講義はプロジェクト学習で進め、ポートフォリオ評価を行う。6割以上を合格とする。																
出席自己 チェック欄 45h	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30		
	32	34	36	38	40	42	44	45									